

2025 年 1 月 17 日

## The Emerging Markets Weekly

### トランプ次期大統領の就任を間近に控える中、まちまちな動き

**新興国市場:**先週末 10 日のアジア時間は米 12 月雇用統計を控え小幅に下落した。KRW や SGD が軟調。欧米時間、米 12 月雇用統計は堅調な結果となり米金利が上昇、新興国通貨は下押しされた。BRL は前日比▲1.2%下落し、MXN や ZAR も値を下げた。週初 13 日アジア時間、先週末の流れが継続し大半が軟調。INR は過去最安値を更新し、対ドルで 86.68 をつけた。その他、PHP や THB も売られた。欧米時間、米株式市場の反発を受けてリスク心理が改善し中南米通貨を中心に小幅に上昇。ZAR や MXN が買われた。14 日のアジア時間は、トランプ政権の経済チームが段階的な関税引き上げを検討との報道も支援材料となり概ね堅調。KRW や TWD が値を伸ばした。欧米時間、米 12 月生産者物価指数 (PPI) が市場予想を下振れ米金利が低下、新興国通貨は上昇。BRL や MXN、ZAR が値を伸ばした。15 日アジア時間は大半が小幅に下落。IDR はインドネシア銀行 (中央銀行、BI) の金融政策発表を控え軟調。その後 BI がサプライズ利下げを決定し更に軟化した。欧米時間、米 12 月消費者物価指数 (CPI) が市場予想を下振れ米金利が大幅低下、新興国通貨は反発。ZAR や BRL、RUB が上昇した。16 日のアジア時間、新興国通貨はまちまちな動き。IDR は前日の BI の利下げを背景に値を下げた。一方、TWD や THB は堅調。欧米時間、ウォラーFRB 理事のハト派な発言を受けてドルが軟化するも、大半の新興国通貨は軟調に推移。MXN や RUB は前日比▲1.0%超下落した。

**アジア:**13 日公表の中国 12 月貿易統計では輸出が前年比+10.7%、輸入は同+1.0%とそれぞれ市場予想を上回った。貿易黒字は+1048 億ドルとなった。同日発表のインド 12 月 CPI は前年比+5.22%と前月から鈍化し、市場予想を下振れた。韓国の高官犯罪捜査庁は 15 日、昨年 12 月に宣布した「非常戒厳」を巡って、内乱容疑などの疑いがかけられていた尹大統領を拘束したことを発表した。なお、この発表に伴う KRW への影響は限定的となった。同日、BI は政策金利を▲25bp 引き下げ 5.75% にすることを決定した。市場では据え置きが予想されていたためサプライズとなった。BI は声明文で経済成長の促進をする努力が必要だと述べ利下げを決定した。同日公表のインド 12 月貿易収支は▲219 億ドルの赤字を記録したが市場予想より赤字幅は小幅となった。また、過去最大の貿易赤字となった 11 月分も▲378 億ドルから▲318 億ドルに修正された。韓国銀行 (中央銀行、BOK) は 16 日、政策金利を 3.00% に据え置くことを決定。前回会合で 2 会合連続の利下げを実施したが今回は見送った。市場では▲25bp の利下げを見る向きが大勢だった。次の利下げについては政策委員の 7 人のうち 6 人が 3 か月以内に追加利下げに前向きな姿勢を示した。

**ラテンアメリカ:**10 日公表のブラジル 12 月消費者物価指数 (IPCA) は前年比+4.83%と前月から鈍化、ほぼ市場予想通りとなるもブラジル中央銀行のインフレ目標を上回っている。

金融市場部  
シニアマーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
03-3242-7065  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
03-3242-7065  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜  
03-3242-7065  
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部  
シニア為替ストラテジスト  
中島 将行  
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

## 市場概観(韓国)

### 尹大統領の身柄を拘束、現職大統領の拘束は史上初

金融市場部  
シニアマーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

韓国の尹錫悦大統領が昨年 12 月に宣布した「非常戒厳」を巡って、尹大統領は内乱容疑などの疑いがかけられていたが、独立捜査機関「高官犯罪捜査庁(高捜庁)」と警察の合同捜査本部は 15 日、尹氏の身柄を拘束したことを公表した。現職大統領の身柄拘束は史上初の出来事であり、今月 14 日には「非常戒厳」を巡る弾劾審判の初公判も実施されていた。

年初以降の動きを振り返ると、3 日に捜査本部は尹氏の拘束令状を執行しようとしたものの、警護庁に阻まれて中止していた。その後、捜査本部は国民に対する「訴え文」の題目で談話を公表し、国が分裂する危機的状況であるとして、再度尹氏の拘束令状を執行する方針で意見集約していた。これに対し、尹氏側の反応は令状が違法と主張していたが、15 日、尹氏は拘束前に映像メッセージを公開し、「不法捜査ではあるものの、不幸な流血の事態を防ぐため、高捜庁の出頭要請に応じることにした」と出頭するに至った経緯を説明した。メッセージの通り、尹氏とその弁護団は、一連の捜査側の動きを違法かつ無効であるとの立場を堅持しており、国民の期待に背くものであると強く批判している。

過去の通貨ニュースでも(\*)触れた通り、既に議会では尹大統領の弾劾訴追案が可決されており、尹氏は憲法裁判所の判断に今後を委ねられる立場でもある。12 月の大統領権限停止から 180 日以内に憲法裁判所による審査が実施されるが、今回の身柄拘束を機に内乱罪の容疑での刑事訴追も本格化することが考えられる。次の争点は拘束期間中に尹氏の逮捕に至るのかという点になるが、仮に逮捕となれば内乱罪を巡る刑事裁判が優先されることも考えられ、憲法裁判所が刑事裁判の状況を確認した上で弾劾訴追審議をする姿勢を示す可能性が浮上する。具体的には既に憲法裁判所は 2 月 4 日の 5 回目の弁論まで日程を公表しているが、今回の動きを受けて今後のスケジュールにも影響が及ぶかもしれないため、韓国政治の混乱が長期化する懸念が一層高まる。尹氏の動向のほか、次期政権の動向も更に混迷を極める状況だ。一連の騒動前の大統領支持率や議会の議席数などを見れば与党は劣勢に映るが、本件を巡る与野党の今後の対応やそれに対する国民の反応次第では大統領選挙前に与党が立て直していくことも決して否定できない状況にある。先述の通り、尹氏の弾劾訴追の審議期限は 6 月までであり、その判決と大統領選挙の実施時期はそれよりも前倒しとなるケースも大いに考えられる。引き続き韓国の政治動向は金融市場への影響も含めて注視していきたい。

(\*)12 月 4 日付通貨ニュース:【韓国: 異例の「非常戒厳」を巡る騒動の概要と金融市場の反応】、12 月 9 日付通貨ニュース:【韓国: 「非常戒厳」を巡る混迷は続く】、12 月 16 日付通貨ニュース:【韓国: 尹大統領の弾劾訴追案が可決、後は憲法裁判所による審議へ】

## 市場概観(インドネシア)

### 1 月金融政策会合～経済成長支援のためサプライズ利下げ～

金融市場部  
大島 由喜  
03-3242-7065  
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 1 月 14～15 日に開催した金融政策会合で、政策金利の BI レートを従来の 6.00%から▲25bp 引き下げ 5.75%にすることを決定した(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファンリティ金利と下限金利の翌日物預金ファンリティ金利も、それぞれ 6.50%、5.00%に同じ幅だけ引き下げられている。9 月会合における利下げ着手後、3 会合連続で利下げが見送られたが、今会合で利下げを再開した格好。なお、ブルームバーグ集計の事前予想では調査対象者全員が政策金利の据え置きを予想していたため、サプライズとなった。

声明文およびペリーBI 総裁の会見では、IDR の安定化やインフレ情勢、FRB の動向に対する言及に加え、経済成長への支援の必要性への言及がみられた。BI は声明文の中で、米国の金融政策や政策方向性、地政学リスクの高まりによる世界経済への不確実性の高まりを指摘した。米国の強い経済と関税政策の影響により米国の利下げ予想は限定的となり、ドルの上昇が各国通貨の下押し圧力となっていると述べた。IDR については BI の安定化政策に支えられ、2025 年 1 月(1 月 14 日まで)は 2024 年末からの下落は▲1.0%にとどまっているとし、INR や PHP、THB と比較して安定していると言及した。前回 12 月会合では IDR の下落を回避しようと努力している様子が強くみられたが、今回会合では相対的な IDR の安定を強調した。

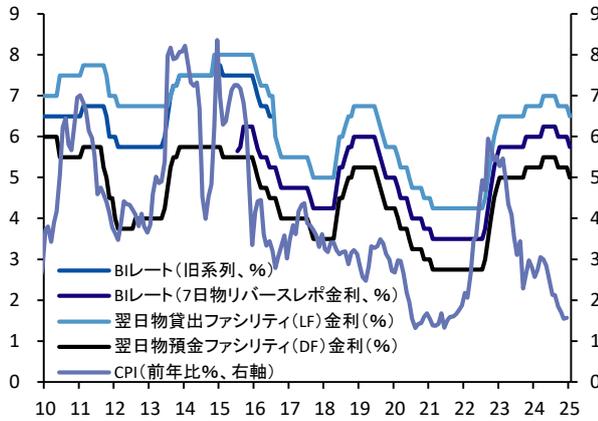
物価動向を見ると、直近公表の 12 月消費者物価指数(CPI)は+1.57%(前年比、以下同様)と 11 月の+1.55%から小幅に上昇したが、市場予想の+1.58%を僅かに下回る結果となった(図表 3)。BI のインフレ目標(+1.5～+3.5%)に引き続き収まっている。また、変動の激しい食料品価格と政府の統制価格を除くコア CPI については、+2.26%と 11 月から横ばい、市場予想の+2.29%を下振れ、水準は依然として十分に低い。BI も「2025 年および 2026 年にかけてインフレ率を目標圏内に抑制する努力を約束する」と自信を示している。

最新の経済動向に関して、消費者信頼感や製造業 PMI、自動車販売はやや持ち直しをみせた(図表 4)。BI もインドネシア経済は良好であるが、2024 年 10～12 月期の成長率は予測より僅かに低かったことを指摘。2024 年の成長率は+4.7%～+5.5%の中間点を僅かに下回る見込みだとした。また、2025 年の成長率見通しを従来の+4.8～5.6%から+4.7～5.5%に引き下げた。国内の消費と投資が依然として弱いとしている。

以上を踏まえペリー総裁は、今回の利下げは「2025 年と 2026 年の低インフレ予測と、IDR の安定維持及び、経済成長を支える必要と一致する」と理由を説明した。また、BI は政府の財政政策とマクロプルーデンス政策のポリシーミックスにより持続可能な経済成長を支援していく姿勢を示した。この点、2024 年末には、付加価値税引き上げの緩和が公表されている。かかる中で BI のサプライズ利下げだったので、金融・財政政策の相乗効果を狙ったとの解釈も可能だろう。他方通貨情勢に関しては、上述の通り前回国会合以降も IDR 安は続いている。もっとも、BI は IDR の安定に自信をみせ、焦点は通貨防衛から景気下支えに移り、この転換が利下げの判断に大きく寄与した模様だ。先行きに関しては、ペリー総裁は「経済成長をさらに促進する余地に注目している」と述べており、これは事実上利下げ路線継続の示唆と

解釈して差し支えない。以上の要素を踏まえ、先々の金融政策に関しては IDR 安の懸念もあるものの、経済成長を支えるため年央にかけて▲25bpの利下げが2回程度実施されると予測したい。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)の推移



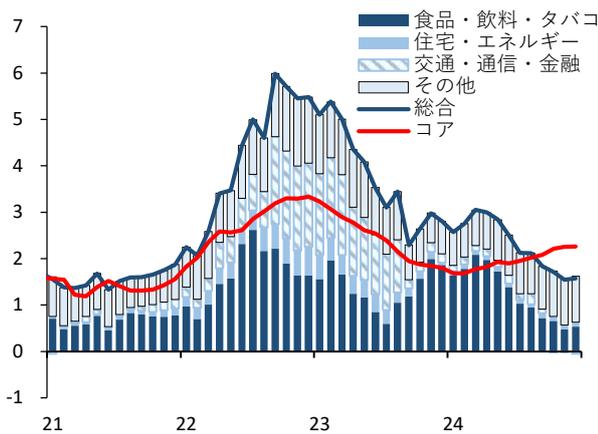
出所: インドネシア銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: IDR 相場と米金利の動向



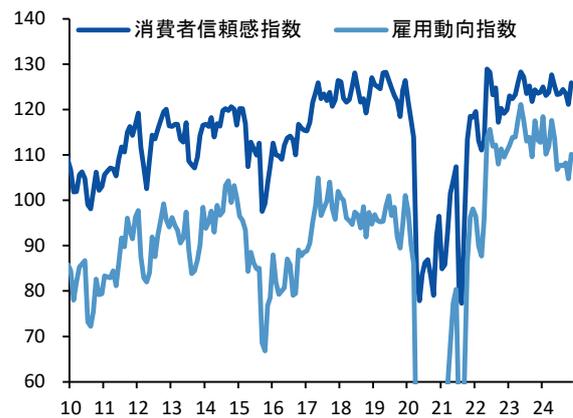
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 消費者信頼感指数の推移



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 市場概観(韓国)

### BOK は利下げを見送り、為替への影響も考慮か

金融市場部  
シニアマーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

韓国銀行(中央銀行、BOK)は 16 日、金融通貨委員会を開催し、政策金利(7 日物レポ金利)を従来の 3.00%に据え置いた(図表 1)。BOK は前回 24 年 11 月会合で 2 会合連続での利下げを実施していたが、今回は利下げを見送った。なお、ブルームバーグの事前予想では▲25bp の利下げが優勢であった。

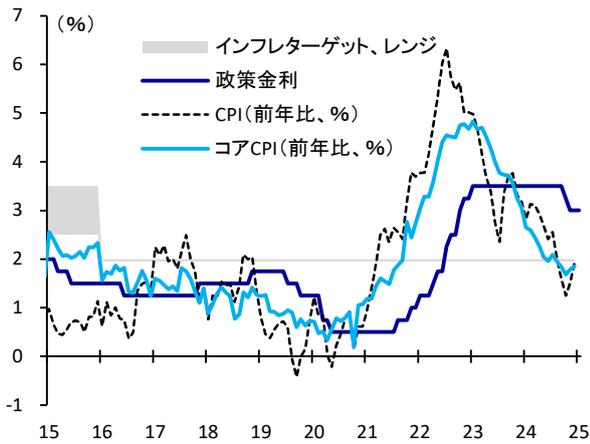
声明文では、世界経済の成長が緩やかに続く見方を維持しながらも、地域ごとに景気の勢いの差が出てきている点を指摘。こうした状況に加えて、主要国の政治動向の不透明性も相まって景気の先行きや金融市場の動向が不安定になりつつあることにも警戒を強めた。国内経済について、昨年 11 月時点の経済成長見通しは 24 年が前年比+2.2%、25 年は+1.9%と設定していたものの、国内の政情不安や昨年末に発生した航空機事故などの影響もあって内需の減速が懸念される中で、従前よりも成長が下振れする可能性を示唆した。

物価動向について、直近の 12 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.9%、農産品や石油類を除いたコア CPI は同+1.8%と、BOK が掲げるインフレターゲットを共に下回った(図表 2)。もっとも、内訳をみると総合 CPI については 5 か月ぶりの上昇に転じており、原油価格の反転上昇や短期的な食料品価格の変動には注意を払う必要があるだろう。一方、BOK が懸念している住宅市況についてはソウル都市圏を中心に一旦は落ち着きを取り戻しつつある(図表 3)。BOK は昨年 11 月時点で 25 年のインフレ率を同+1.9%としていたが、短期的なインフレは 2%を上限とした推移が続くとの見方を示している。

かかる中、BOK は景気動向を注視しつつ物価や金融市場の安定性を維持する上で金利を据え置くことを決定した。市場では内需の減速懸念を受けて 3 会合連続での利下げに踏み込むとの予想が優勢であったが、昨年 10 月、11 月の連続利下げ自体もサプライズな決定であったため、まずはこれらの利下げの効果を確認するという意図が感じられた。また、住宅市況についても BOK は再加熱を警戒しているため、急速な金融緩和を避けた可能性はある。もっとも、李 BOK 総裁の会見では委員会メンバーの 7 人のうち 6 人が 3 か月以内の追加利下げに前向きであるとも述べており、世界政治・経済動向の変化に対して景気の下リスクが強まれば更なる利下げが見込まれる状況に変わりはない。

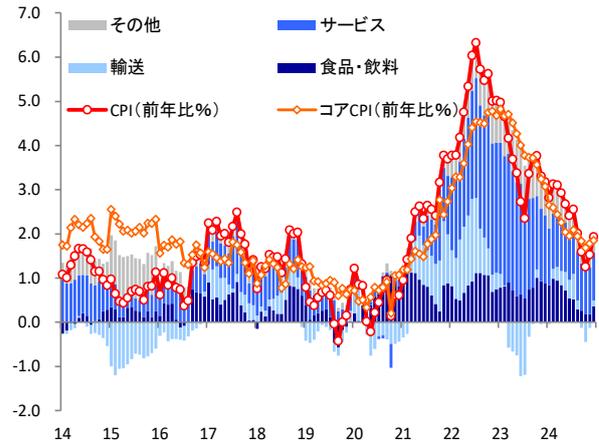
また、BOK は KRW の動向を大きく意識したと考えられる。年末年始の政情不安の影響で KRW は断続的に安値を更新しており、政情不安を嫌気する売りは当面警戒される(図表 4)。KRW 安は輸入物価の加速というかたちで韓国経済に跳ね返ってくることも考えられ、米国の金融政策がタカ派色を強める中で、安易に利下げを決定できないといった事情も推察される。李総裁は国内政治の混乱が収束すれば、外部環境の変化に囚われない政策決定が可能とコメントしたが、裏を返せば今後数回は米国睨みの会合になるかもしれない。以上を踏まえて、上半期の政策運営については四半期に 1 度以上の利下げ(≒米国以上のペースで利下げ)をする可能性は低いと予想し、KRW 相場についても当面はドルに押される展開が続くと考えている。

図表 1: 政策金利とインフレ率



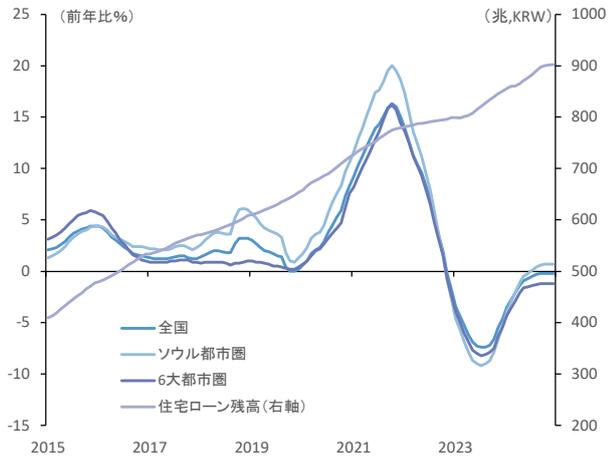
出所: BOK、CEIC、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価指数の動向(前年比%、%ポイント)



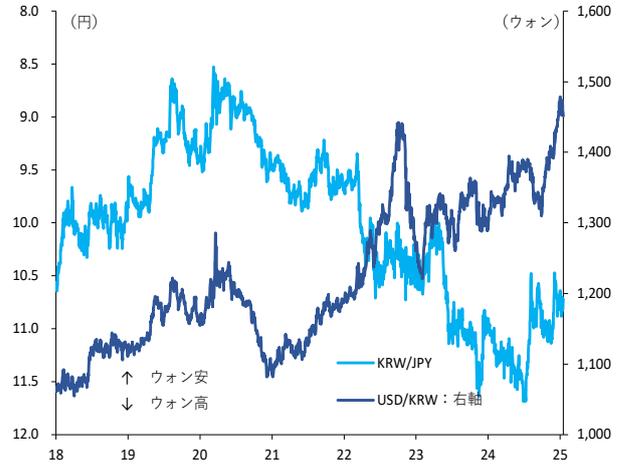
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 住宅価格の動向と住宅ローン残高



出所: BOK、ブルームバーグ、みずほ銀行

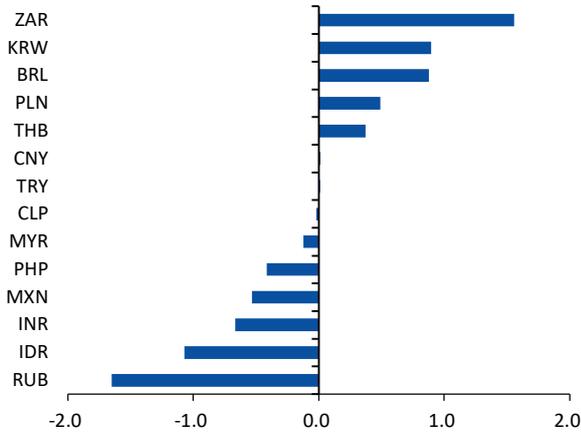
図表 4: KRW 相場の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

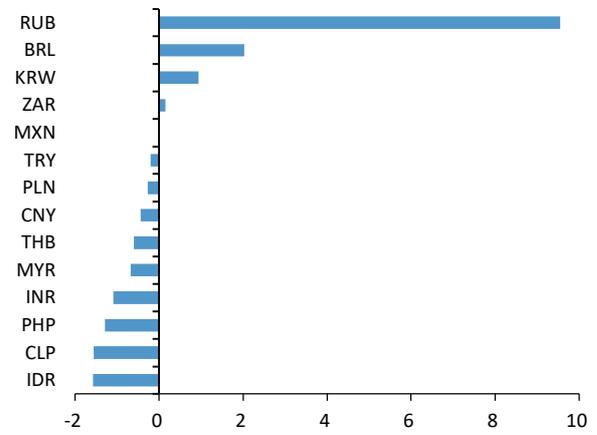
## 資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



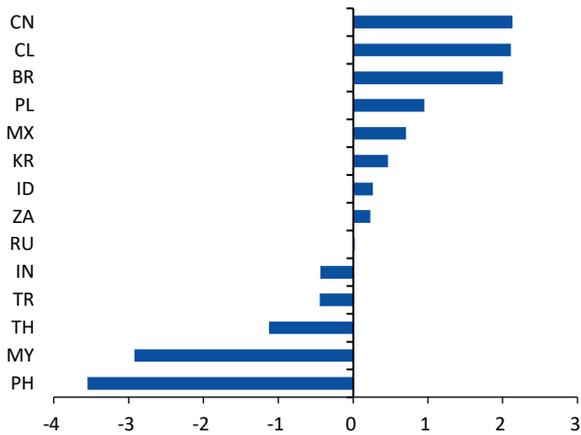
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



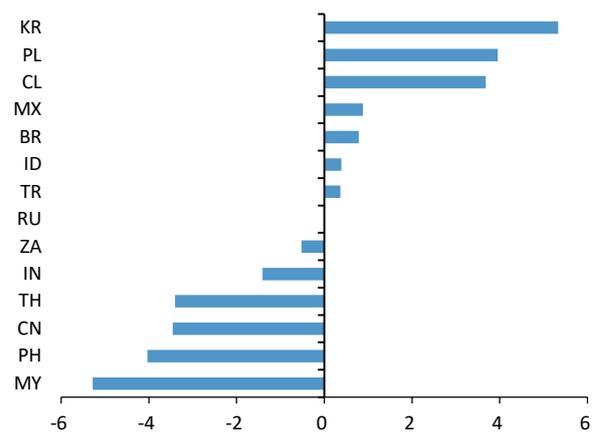
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



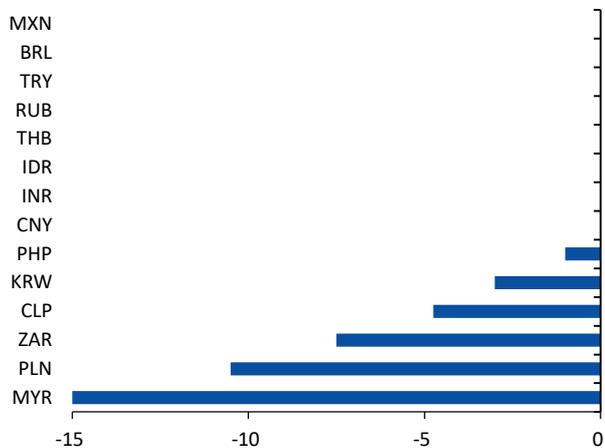
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

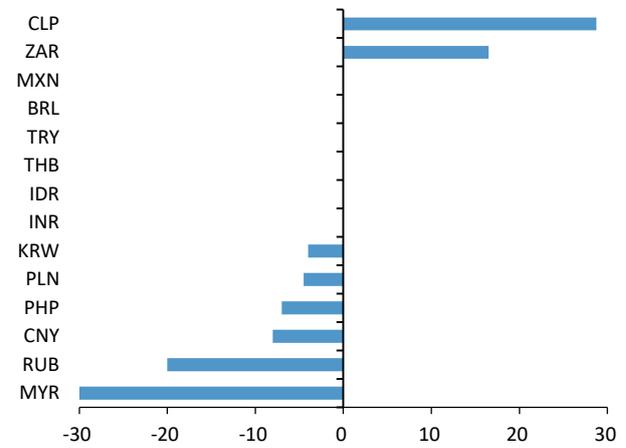
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

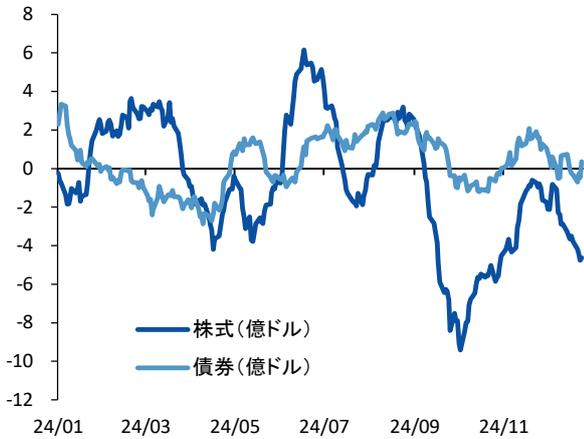


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

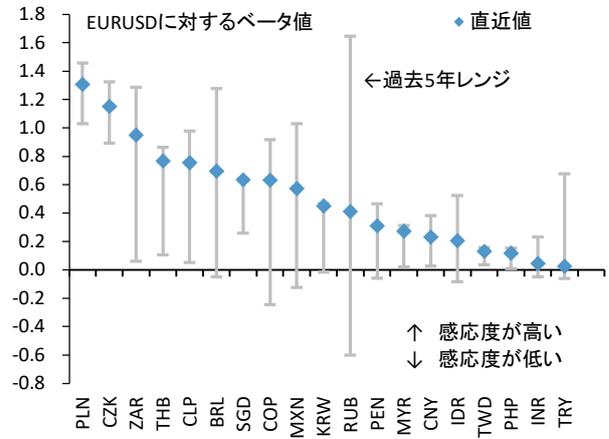
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



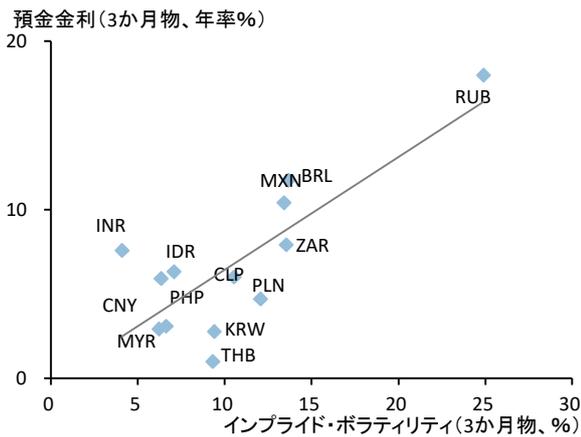
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



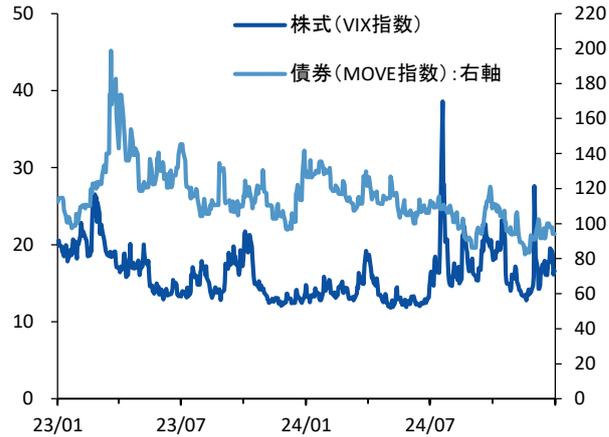
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



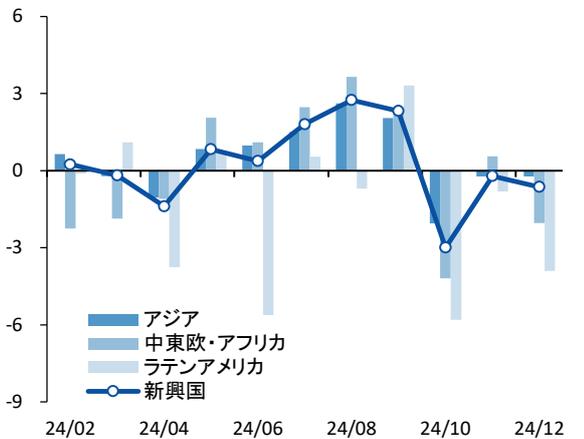
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



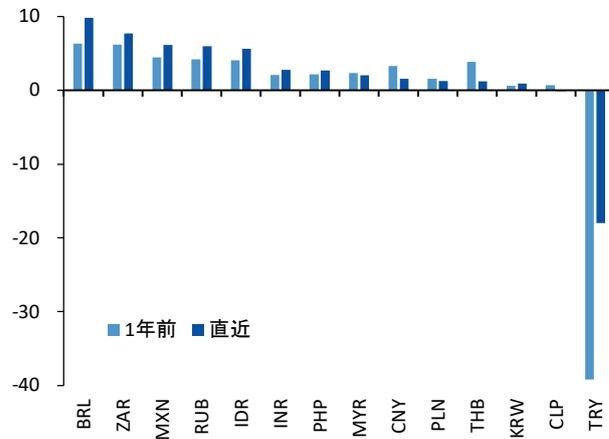
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

## 新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
<b>エマージングアジア</b>						
1月13日 (月)	中国	貿易収支	\$100.00b	\$104.84b	\$97.44b	--
13日 (月)	インド	CPI(前年比)	5.3%	5.2%	5.5%	--
15日 (水)	インドネシア	貿易収支	\$3792m	\$2239m	\$4420m	\$4367m
15日 (水)	インドネシア	BI-Rate	6.00%	5.75%	6.00%	--
15日 (水)	インド	輸入(前年比)	--	4.9%	27.0%	16.0%
15日 (水)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	3.0%	3.3%	2.7%	--
15日 (水)	インド	輸出(前年比)	--	-1.0%	-4.8%	-5.1%
16日 (木)	韓国	BOK Base Rate	2.75%	3.00%	3.00%	--
17日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	7.8%	--	3.4%	--
17日 (金)	中国	GDP(前年比)	5.0%	--	4.6%	--
17日 (金)	中国	鉱工業生産(前年比)	5.4%	--	5.4%	--
17日 (金)	中国	小売売上高(前年比)	3.5%	--	3.0%	--
17日 (金)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	3.3%	--	3.3%	--
17日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	5.2%	--	5.3%	--
20日 (月)	中国	1年貸出プライムレート	3.10%	--	3.10%	--
20日 (月)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	4.1%	--
20日 (月)	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$2276m	--
21日 (火)	韓国	PPI 前年比	--	--	1.4%	--
21日 (火)	台湾	輸出受注(前年比)	--	--	3.3%	--
22日 (水)	韓国	消費者信頼感	--	--	88.4	--
22日 (水)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	1.8%	--
22日 (水)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	3.00%	--	3.00%	--
23日 (木)	韓国	GDP(前年比)	--	--	1.5%	--
23日 (木)	シンガポール	CPI(前年比)	--	--	1.6%	--
23日 (木)	台湾	鉱工業生産(前年比)	--	--	10.3%	--
24日 (金)	フィリピン	貿易収支	--	--	-\$4767m	--
24日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	--	--	8.5%	--
24日 (金)	台湾	GDP(前年比)	--	--	4.2%	--
<b>中東欧・アフリカ</b>						
1月13日 (月)	トルコ	経常収支	-3.35b	-2.87b	1.88b	1.84b
16日 (木)	ロシア	CPI(前年比)	9.8%	9.5%	8.9%	--
21日 (火)	ロシア	経常収支	--	--	7758m	--
22日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	2.9%	--
22日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	6.3%	--
23日 (木)	トルコ	1週間レポレート	--	--	47.50%	--
<b>ラテンアメリカ</b>						
1月15日 (水)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	-2.8%	-2.6%	-3.3%	--
16日 (木)	ブラジル	中央政府財政収支	-6.5b	-4.5b	40.8b	--
16日 (木)	ブラジル	経済活動(前年比)	4.4%	4.1%	7.3%	7.2%
21日 (火)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	-1.2%	--
23-31日	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	4.7%	--
24日 (金)	ブラジル	経常収支	--	--	-\$3060m	--
24日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	--	--	0.7%	--

注: 2025年1月17日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。  
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 為替相場見通し

	2024年 1～12月(実績)	SPOT	2025年 3月	6月	9月	12月	2026年 3月
<b>対ドル</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民幣 (CNY)	7.0048 ~ 7.2998	7.3316	7.32	7.38	7.23	7.12	7.12
香港ドル (HKD)	7.7592 ~ 7.8387	7.7873	7.76	7.76	7.75	7.76	7.76
インドルピー (INR)	82.649 ~ 85.813	86.550	85.8	86.0	84.8	84.3	84.3
インドネシアルピア (IDR)	15060 ~ 16481	16376	16250	16300	15650	15200	15230
韓国ウォン (KRW)	1290.39 ~ 1487.03	1456.81	1470	1470	1450	1420	1400
マレーシアリング (MYR)	4.0947 ~ 4.8053	4.5028	4.53	4.53	4.30	4.12	4.14
フィリピンペソ (PHP)	55.300 ~ 59.041	58.593	59.5	59.6	57.2	56.5	56.3
シンガポールドル (SGD)	1.2789 ~ 1.3680	1.3667	1.36	1.37	1.34	1.32	1.32
台湾ドル (TWD)	30.518 ~ 32.922	32.923	33.0	32.7	32.5	32.3	32.3
タイバーツ (THB)	32.14 ~ 37.25	34.56	34.8	35.2	34.3	33.6	33.5
ベトナムドン (VND)	24260 ~ 25512	25378	25850	25750	25100	24700	24680
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	82.6604 ~ 115.2001	103.6868	106.0	108.0	110.0	112.0	114.0
南アフリカランド (ZAR)	17.0356 ~ 19.3899	18.8275	18.2	18.0	17.8	17.6	17.4
トルコリラ (TRY)	29.6646 ~ 35.5975	35.4776	34.5	34.0	33.5	33.0	32.5
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルリアル (BRL)	4.8317 ~ 6.3156	6.0546	6.30	6.10	6.00	5.90	6.00
メキシコペソ (MXN)	16.2616 ~ 20.9072	20.8511	20.7	21.0	20.7	20.5	20.3
<b>対円</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民幣 (CNY)	19.666 ~ 22.256	21.188	21.04	21.14	21.72	22.47	22.75
香港ドル (HKD)	17.905 ~ 20.733	19.934	19.85	20.10	20.26	20.62	20.88
インドルピー (INR)	1.664 ~ 1.939	1.796	1.79	1.81	1.85	1.90	1.92
インドネシアルピア (100IDR)	0.876 ~ 0.999	0.948	0.948	0.957	1.003	1.053	1.064
韓国ウォン (100KRW)	10.314 ~ 11.735	10.656	10.48	10.61	10.83	11.27	11.57
マレーシアリング (MYR)	30.593 ~ 35.497	34.574	34.00	34.44	36.51	38.83	39.13
フィリピンペソ (PHP)	2.451 ~ 2.776	2.666	2.59	2.62	2.74	2.83	2.88
シンガポールドル (SGD)	106.65 ~ 120.03	113.55	112.99	113.79	117.60	121.40	122.91
台湾ドル (TWD)	4.335 ~ 4.976	4.716	4.67	4.77	4.83	4.95	5.02
タイバーツ (THB)	4.018 ~ 4.657	4.491	4.43	4.43	4.58	4.76	4.84
ベトナムドン (100VND)	0.5646 ~ 0.6365	0.6117	0.60	0.61	0.63	0.65	0.66
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	1.323 ~ 1.907	1.498	1.45	1.44	1.43	1.43	1.42
南アフリカランド (ZAR)	7.588 ~ 8.973	8.243	8.46	8.67	8.82	9.09	9.31
トルコリラ (TRY)	4.071 ~ 4.978	4.365	4.46	4.59	4.69	4.85	4.98
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルリアル (BRL)	24.398 ~ 31.200	25.640	24.44	25.57	26.17	27.12	27.00
メキシコペソ (MXN)	6.991 ~ 9.455	7.443	7.44	7.43	7.58	7.80	7.98

注:1. 実績の欄は2024年12月31日まで。SPOTは1月17日の7時00分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。